

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	第 2 回姫路市国際戦略検討懇話会
2 開催日時	令和 8 年 6 月 3 0 日（火曜日） 1 4 時 0 0 分～1 5 時 3 0 分
3 開催場所	姫路市役所 1 0 階 第 4 会議室
4 出席者又は欠席者名	〔構成員〕 高坂委員、手島委員、中農委員、福吉委員、夫馬委員 〔事務局〕 観光経済局：森局長 国際戦略室：石井室長、篠原主幹、村上主幹、柳田副理事、二宮課長補佐、 横田国際交流センター館長、定主任 関 係 課：観光コンベンション室 西本主幹、新井課長補佐、井上主任 産業振興課 安西課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	2 人
6 議題又は案件及び結論等	・ 姫路市の国際化の現状について ・ 姫路市国際戦略骨子案について
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	1 開会 第2回姫路市国際戦略検討懇話会を開会する。
座長	2 出席者紹介 3 座長あいさつ 資料を読む時間は手短かに、議論をしっかりと進めたい。皆さまには忌憚のないご意見をお願いする。本日の議論のポイントとして2点提案する。1点目は「急増する外国人住民との共生」について、2点目は「グローバル社会の中での姫路市のイメージ戦略」について議論を深めたい。 4 協議 (1) 姫路市の国際化の現状について (2) 姫路市国際戦略骨子案について
事務局	資料1「第2回姫路市国際戦略検討懇話会会議資料」説明及び北九州市視察報告 北九州市は「グローバル挑戦都市」を掲げ、先進的な取組を進めている。特に、環境技術という都市の強みを国際貢献に繋げていること、市役所内の連携及び、大学、企業、経済団体等との官民の連携が非常に強固であることに圧倒された。本市の戦略を実効性のあるものにするためには、こうした連携が不可欠であると改めて実感した。北九州市の事例も参考にしながら、目標の実現に向けて取り組んでまいりたい。
座長	まずは基本方針Ⅱに関連する「外国人住民との共生」について議論する。兵庫県内の外国人住民は15万人を超えた。姫路市は1万5千人で、1割を占めている。留学生の国籍で最も多いのはネパール、次いで中国、韓国、ミャンマーの順であり、ネパールとミャンマーが急増している。資料の11ページにSWOT分析4「リスク回避」の戦略として生活基盤の整備や多文化共生が挙げられているが、日本国内では、ムスリムの方に対する排外主義的な動きが高まっている地域があったり、国籍ごとに明確に居住地域が分かれていたり、まちづくりがうまくいっていないケースが見られる。また、在留資格更新の際の手数料の上限が引き上げられた。高度専門職の外国人材を、行政は積極的に支援しなければいけないのではないかな。単なる労働力として「使い捨て」にしてはいけない。専門学校等で高度外国人材として育成すること、そして卒業後帰国するときに「姫路での生活は幸せだった。将来、また姫路で暮らしたい」と思えるような環境を整えること、それが国際交流の肝である。多様性と包摂性はまちにとって大きな力になる。こういった人材に姫路市に来てほしいのかということもしっかりと検討してほしい。 本日、事務局から7つの戦略案が示されたが、足りない点などはあるか。
委員	前回、日本語学習の場を増やす必要があると言ったが、外国人住民からは「仕事がハードで、仕事帰りや休日に日本語教室に通うのはきつい」という意見もある。また、「国際交流フェスティバルといった大きなイベントだけでなく、日常的に日本人と交流できる小さなイベントを増やしてほしい」という要望も多い。外国人は、そういったイベントを求めて神戸や大阪に行ってしまう。
座長	AIを活用した教材や、オンラインで日本語を学べる仕組みをつくることはでき

	るか。イベントについてはどうか。
事務局	兵庫県や北九州市はオンラインの日本語教室を実施しており、姫路市でもオンライン開催について検討したい。イベントについては、昨年、日本人高校生と日本工科大学校の留学生との交流事業を行ったところ、双方に非常に好評であった。外国人住民に対する漠然とした不安の解消のためにも、このような交流の機会を増やしていきたいと考える。
座長	外国人材は姫路市にとってかけがえのない「宝」であり「財産」である。おもてなしの心で取り組んでいただきたい。
委員	日本工科大学校の留学生は、日本語学科で学んだ後、自動車整備やＩＴ技術の専門課程、あるいは大学に進む。今春本校を卒業した留学生 57 名のうち、38 名（約 7 割）が県外（主に関東、名古屋、大阪などの大都市圏）に就職した。理由は、大都市圏に友人や親戚が多いことや、「都会への憧れ」などである。姫路市内の就職先としては自動車ディーラーなど。市内の企業に就職した卒業生の中には、姫路市の女性と結婚して家庭を築いている人もいる。市内で就職する卒業生が増えると定着率が高くなると考える。定着率向上の鍵は、「まちの魅力」と「コミュニティづくり（友人・人間関係）」である。
座長	コミュニティづくりの基本は言葉であり、母国語での仲間づくりの場や日本語学習の支援は非常に重要である。そのほか、市内定着を促進するためには、企業も給料を増やすなど、魅力ある企業にならなければいけない。 エッセンシャルワーカーが足りなくなると言われる一方で、アンケートでは専門的・技術的職種、建設の職種、管理的職種が不足しているという意見が多い。姫路市の企業はどういった外国人材を必要としているのか。
委員	どの職種もどの職位も人材不足である。特に中小企業は新卒採用に苦戦している。ＤＸ人材やＩＴ人材を必要とする企業は、国籍は問わず、優秀な人材が欲しいと考えている。
座長	姫路市は東南アジアなどで姫路市の企業のＰＲをするといった採用活動の海外展開は行っているのか。
事務局	昨年度台湾に訪問し、人材育成、経済、観光の分野において、連携に向けた協定を締結し、具体的な連携事業を進めようとしている。今後、アジア圏の新たな都市との連携事業や、海外姉妹都市等との連携事業にも取り組みたいと考えている。
委員	外国人材の採用には、海外から直接採用する方法と、国内の留学生を採用する方法がある。日本語能力が高く、日本の生活習慣に慣れている人材を採りたいというニーズが高い。ジェトロ神戸は大学で「企業研究会」を実施し、地元の企業と留学生が交流する機会を設けているが、そういった機会が留学生の県内就職につながっている。姫路市には製造業など、多くの魅力的な企業がある。企業の魅力を留学生にダイレクトに伝える機会を増やすことが有効である。
座長	姫路市の企業は通年で採用活動を行っているのか。行政と企業が連携し、いつで

	も採用できるような仕組みを作るべきだ。
委員	留学生の多くは、卒業後日本で働きたいと考えているが、在留資格が得られないために母国に帰るケースもある。専門学校を卒業した場合は在留資格の条件が厳しく、例えば自動車整備科を修了したものは、自動車整備の分野に就職しなければ在留許可が下りない。日本はどの業種も人手不足であるのに、こうして貴重な人材の損失が起きている。国としても柔軟な対応が必要である。
座長	外国人から見て、日本は住みたくなる国なのか。土葬をめぐる衝突や、公園での集団礼拝の不許可といったニュースが流れる。日本ではなぜ多文化共生が進まないのか。
委員	日本は外国人との軋轢が起きやすい文化環境である。規範や秩序が高度に維持されているために、規範から少し外れた行動に対して拒絶反応が生じると考える。 本年1月に国で「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」が決定し、現在、法務省、文部科学省、厚生労働省をはじめとした各省庁で多くの政策が進められており、今後も展開していくという状況である。姫路市国際戦略も観光経済局だけのものではなく、政策局、市民局、教育委員会など部局横断でコンセプトを共有し、歯車をきっちり合わせて様々な施策に取り組んでいくということをまずは強く意識していただきたい。 その上で重要なポイントが2点ある。1つ目は事業主の支援である。先般、厚労省で「外国人雇用管理指針」が改定され、外国人労働者の日本語学習支援等が事業主の努力義務とされた。この努力義務を果たせない事業主は外国人を雇用できないということである。北九州市では「外国人材就業サポートセンター」という事業主のための相談窓口があり、外国人新入社員向けビジネス研修などもホームページで公開している。行政のサポート力の差は産業競争力の大きな差に直結する。 2つ目は医師不足の問題である。姫路市は医療機関、医師が少ない大都市である。現在の医療の逼迫問題にさらに外国人への対応が加わることになる。この苦境を乗り切るために、先進的な医療のあり方を考えなければならない。また、重要なKPIとして「外国人が増えることに対して『トラブルが起こる』『治安が悪化する』といった懸念を示す人の割合」を設定するべきである。この数字が下がっていくかどうかを注視していくことが重要である。
事務局	国の制度等を研究し、取り組むべき施策を検討したい。トラブルや治安を懸念する人の割合について、KPIとして設定する方向で検討したい。
座長	前向きに検討し実行する、実行しない場合はその理由を説明するべきである。常に透明性と説明責任を持っていただきたい。先ほどの事業主のサポートについては産業部局の問題である。姫路市はどういった支援ができるかしっかりと検討していただきたい。
委員	外国人材の定着については、職場環境が重要であり、行政、企業、コミュニティ、個人がそれぞれの役割を果たし、総合的に対応していくことが不可欠である。ジェトロでは高度外国人の雇用にかかる相談、異文化コミュニケーションの助言、キャリアパス（人事評価）制度の導入の支援なども行っており、ぜひ活用していただきたい。3年後、5年後、会社の中でどういうキャリアを積んでいくかといったこと

	を外国人社員に示すことは、定着のためにも重要である。
座長	次に、基本方針Ⅲに関連する「グローバル社会の中での姫路市のイメージ戦略」について議論したい。前回「姫路市は日本国内でも印象が薄い」という意見があった。「日本人にとって魅力があるまちは、外国人にとっても魅力がある」という視点で考えていきたい。姫路城は「不戦の城」であり、平和というキーワードで広島市とつながるといったことも考えられるのではないか。世界遺産というキーワードだけであれば、一度きりの訪問で終わってしまう。姫路市には「地域再生のモデル都市」になってほしい。「平和都市モデル」であり「観光都市モデル」であり「産業都市モデル」でもある、多様なイメージ戦略を進めていくためには、産学官公金の連携が不可欠である。熊本といえば半導体であるが、姫路といえば何があるか。「この産業といえば姫路だ」というブランドをつくるためには、企業を積極的に誘致し、集積を進めていかなければならない。兵庫県の瀬戸内海沿岸は「ひょうごメタルベルト」と言われる全国有数の金属素材製造・加工企業の集積地帯であるが、ブランドになっていない。
委員	高市政権の大きな柱「地域未来戦略」では、各地域の特性に合った産業の集積を図るため、インフラの整備などに別枠の予算を確保して集中投資する。つまり、地域産業の発展に尽力する自治体に巨大なお金がつく時代になっている。地域未来投資促進法に基づく兵庫県姫路市基本計画では、地域経済牽引事業として①鉄鋼業、業務用機械器具製造業、電気機械器具製造業、化学工業等②金属製品製造業、食料品製造業、なめし革毛皮製造業等③世界文化遺産・国宝姫路城④小麦、大豆、たけのこ、イカナゴなどの特産物の4つを掲げているが、③の姫路城以外は国内でもイメージが薄いのではないか。この4つの姫路ブランドが世界に広く知れわたっているかということと、これらの業種に高度外国人材が集まっているかということの2点を注視していくことが重要である。
事務局	事業主の支援や、産業・特産品の振興等については、商工会議所と密に連携し、産官学金のつながりを重視して取り組んでいきたい。
委員	北九州市はメタルの世界でも非常に注目されている。北九州市主導で東京にも何度も足を運び、金融界にも強く働きかけている。ぜひ北九州市の様々な取組を姫路市に取り入れていただきたい。
事務局	兵庫県が赤穂市から高砂市にかけてGX化を進めていく計画を検討しているので、県としっかりと連携したい。
座長	姫路市の医療関係について、外国人住民が困っていることなどはあるか。
委員	日本語ができない外国人は、病院に行く時、大抵日本語ができる友人を連れて行く。日本の医療保険はすばらしい制度である。救急車は無料であり、医療機関では少ない費用負担で必要な医療サービスを受けることができる。
座長	福島県の帰還困難区域では医療体制の維持が極めて大きな課題であり、オンライン診療が発達している。姫路市の医療体制の課題についても今後考えていきたい。

委員	この懇話会のゴールは、施策体系図を作ることか。最終的に「構想」としてまとめるイメージか。主な施策例には全国どこの市町村にも共通する項目が並んでいる。最終形は項目を並べたものになるのか。
座長	戦略や施策の文章はA Iで作ることができる。我々がこうして顔を突き合わせているのは、姫路市に対して「思い」があるからである。我々は戦略の文言ではなく、「具体的にこういった取組をしなければならない」「こういう事業を進めていくと姫路市の産業は元気になる」という社会実装を考えていく。そして市は部局横断で歯車を回す。国際戦略を国際戦略室だけで進めてはいけない。
委員	具体的な取組をこちらからどんどん提案していくということか。
座長	委員から「姫路市でしかできないこと」「姫路市が先進的に取り組むこと」といった政策の目玉を提案し、姫路市に実行してもらいたい。
委員	人材育成の分野についても様々な施策を提案していきたい。近い将来、留学生が韓国や中国に流れるのではないかという不安は常にある。十数年前、大阪府専修学校各種学校連合会がベトナムに事務局を設けて、留学生を大阪に誘致する活動を展開し、大阪府がその活動の費用面等をバックアップしていた。姫路地区専門学校連合会も姫路市と連携してそのような活動ができるか検討したい。
座長	姫路市が産業を活性化していくには高度専門外国人材の育成・確保が不可欠であるが、行政は企業に対してどういった支援ができるか。
委員	姫路市の「合同企業説明会」は、良い取組であると思う。採用はコストがかかり、行政が主催する合同説明会は企業も参加しやすい。姫路市に多い製造業などの業種は理系人材を必要としているが、兵庫県内には大学の理系学部が少ないため、県外の理系留学生への広報も今後有効と考える。
座長	姫路市が国際的な交流人口、関係人口を増やすためには何をすべきか。どのようなSNS戦略が有効か。
委員	姫路市を知るきっかけはやはり姫路城である。ヨーロッパの城と城ブランドで繋がりが、姫路市を知ってもらうという姉妹城の取組はある程度成功している。ただ残念なことに、姫路城という「点」を見て終わりとなっている。きっかけを「面」に繋がられていない。姫路城の次に、なぜ姫路城の足元にはこのようなまちがあるのか、どのように工業都市が発展してきたのかといったストーリーをしっかり作って発信していく。城を知った方に城以外のコンテンツをどうぶつけていくかということでSNSは間違いなく重要である。
委員	食文化のPRも重要である。姫路おでんは外国人の友人にも好評であった。姫路市公式SNSとしてはどういったものがあるか。
事務局	広報推進員がInstagramやX(旧Twitter)、Facebook等で情報を発信している。また、多言語情報ツールを活用し、多言語での情報発信にも取り組んでいる。

委員	なぜ京都に観光客が増えるかというと、清水寺などの「点」があり、それを取り巻くまちがあるからだ。姫路市は世界遺産のまちであるのに、城周辺の歴史的な景観地域は野里だけである。その野里でも昔の木造建築が潰されてマンションに変わっている。過去に、城周辺に石の歩道が整備されたが、まちの整備まで至らなかった。観光客にとって魅力があるまちは「回遊性のあるまち」である。いかに歩かせるまち並みがあるか。そこを本気で取り組まないと、城から広げることは難しい。都市局の範疇であるが、ぜひ今からでも取り組んでいただきたい。
座長	京都は「観光都市」であるが、「学生のまち」でもある。そのためにＪＲ京都駅前に巨大なビルを建設し、管理費に毎年多額の予算を投入している。姫路市も「観光都市として生きていく」「産業都市として生きていく」のであれば、当然それなりの投資をして整備しなければならない。それこそがまさに「戦略」である。 ５ 閉会 第２回姫路市国際戦略検討懇話会を閉会する。